

准教授
角谷 尚久

■ 学歴

1. 2023年 BAM(Dr Babasaheb Ambedkar Marathwada)University (India)

■ 学位

1. 2023年 博士（観光学）Ph.D. (Tourism)

■ 研究分野

1. 人文・社会 / 観光学
2. 人文・社会 / 経営学
3. 人文・社会 / 経営情報学

■ 研究キーワード

1. 航空産業
2. 観光マーケティング
3. 国際観光（インバウンド）
4. 地方創生

■ 研究課題

1. グローバル化する航空事業において収益構造の変化や協業体制の課題について
2. 複雑な旅行ビジネス構造の中での旅行業が直面している課題について
3. 地方創生において地域のかかえる課題について

■ 担当授業科目

1. 初年度セミナーⅠ（前期）（観光文化学科）必須
2. 専門演習Ⅰ（前期）（観光文化学科）必須
3. インターンシップ（前期）（観光文化学科）選択
4. 観光フィールドワーク（前期）（観光文化学科）選択
5. 宿泊産業論（前期）（観光文化学科）選択
6. タウンマネジメント（前期）（観光文化学科）選択
7. 初年度セミナーⅡ（後期）（観光文化学科）必須
8. 専門演習Ⅱ（後期）（観光文化学科）必須
9. 航空産業論（後期）（観光文化学科）選択
10. 観光産業論（後期）（観光文化学科）選択
11. ニューツーリズム論（後期）（観光文化学科）選択
12. フィールドワーク入門（後期）（観光文化学科）選択
13. マルチメディアツーリズム（後期）（観光文化学科）選択

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【インターンシップ】 就職選考の早期化が進む中、インターンシップの重要性を学生に認識させることに注力した。また、就職課との連携を強化し、業種の絞り方など具体例を提示しながら指導を行うことで、学生自身の社会活動の可視化を促進するよう工夫した。
2.	授業科目名【宿泊産業論】 対面授業において、宿泊産業の歴史やビジネスモデルをできるだけ具体例を交えて講義した。さらに、実学重視の視点から授業を構成し、理解度を深めるとともに、就職活動を見据えた解説を行うことで、学生が実社会に直結した知識を身につけられるよう配慮した。
3.	授業科目名【航空産業論】 行動制限が解除され航空需要が回復しつつある現状を踏まえ、各航空会社のリカバリープランや業界の最新動向について解説した。また、航空業界への就職を志望する学生を意識し、実務家によるゲスト講演を実施することで、航空産業のリアルな現状を伝え、より実学的な理解を深める工夫を行った。
4.	授業科目名【観光フィールドワーク】 前年度後期に開講した「フィールドワーク入門」の内容を発展させる形で、フィールドワークの役割を再認識するとともに、実施に必要な意義や手続きについて実践的に指導した。学生が現場で活用できるスキルを身につけられるよう、実務習得に重点を置いた工夫を施した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2009年4月	東北亜観光学会	
2.	2009年4月	旅行ビジネス研究学会	
3.	2013年4月	日本ウマ科学会	
4.	2016年8月	観光学術学会	
5.	2016年8月	日本海運経済学会	
6.	2018年12月	日本観光研究学会	
7.	2019年12月	日本観光経営学会	
8.	2021年10月	沖縄経済学科	
9.	2022年6月	共生学会	設立発起人
10.	2022年12月	日韓国際学術学会	常任理事(2024年2月～現在)
11.	2022年12月	日本企業経営学会	理事(2024年9月～現在)
12.	2022年12月	東アジア企業経営学会	
13.	2024年5月	日本比較文化学会	

■ 研究業績等に関する事項（2024年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の 別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
(著書)					
1.					
(学術論文)					
1.	2025.2	Resilience of Human Resources in the Tourism Industry: Case Studies of a Major Travel Agency in Japan	共	Northeast Asia Tourism Research Vol.21 No.1 (査読付)	<p>①本研究は、日本の大手旅行会社を事例に、観光業における人的資源のレジリエンスを分析した。COVID-19による打撃後、離職率の上昇と人手不足が業界に深刻な影響を与え、サービス低下や観光収入の減少が GDP にも波及している。人的資本の維持と強化は、観光業の持続可能性と経済成長に不可欠であり、政策的支援や柔軟な雇用戦略が求められることを示した。</p> <p>②共著者名：重谷陽一・小山聖治</p> <p>③共同執筆につき本人担当部分抽出不可能</p>
2.	2025.2	航空産業における戦略転換と収益構造の変容 -日本航空と全日本空輸の事例分析-	単	東亜企業経営研究 第4号 (査読付)	<p>①本稿は、日本航空（JAL）と全日本空輸（ANA）の経営戦略を比較分析し、新型コロナウイルス感染症下における対応と業績回復過程を考察した。収益構造の多様化、環境対応、柔軟な経営戦略が航空産業の持続的成長に不可欠であることを明らかにした。</p>
3.	2025.3	Insights into Interests and Tourism Image of Okinawa through SNS Data	共	Journal of Glocal Studies Vol.2 (査読付)	<p>① 本研究は、SNS 投稿と検索行動データを分析し、沖縄観光に対する関心や観光イメージの傾向を明らかにした。季節変動に伴う検索傾向、肯定的・否定的感情、主要観光地への関心の可視化を通じて、観光資源の強化点と課題を特定した。SNS データ活用による観光戦略最適化の可能性を示唆した。</p> <p>② 共著者名：國崎 歩</p> <p>③ 共同執筆につき本人担当部分抽出不</p>

					可能
4.	2025.3	How the Covid-19 Crisis Changes the Tourism Industries in Island Resort -Case Studies in Resort Hotels in Okinawa-	共	Journal of Glocal Studies Vol.2 (査読付)	<p>① 本稿は、Covid-19 危機が沖縄県のリゾートホテル業に及ぼした影響を分析した。コロナ禍により国際観光は消失したが、国内需要への転換と高付加価値化により宿泊業は回復を遂げた。価格維持による収益安定化、設備投資による差別化が奏功し、今後の持続的発展には市場多様化とレジリエンス強化が不可欠であることを示した。</p> <p>② 共著者名：重谷陽一・渡辺俊也</p> <p>③ 共同執筆につき本人担当部分抽出不可能</p>
(実践報告)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.	2024.9	インターネットと SNS 投稿からみる沖縄観光における関心と観光イメージの特徴について -観光客行動歴分析レポートをもとに-	共	International Academic Conference on Glocal Tourism	
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				

3.				
----	--	--	--	--

(2) 個人研究

	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.			
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023.4～現在に至る	学生募集委員	副委員長
2.	2023.4～現在に至る	入試委員	
3.	2024.4～現在に至る	国際交流委員	